

平成28年度 見附市総合学習部 活動報告

部長 安達 明美

1 研究主題 「実践に学ぶ・地域とつながる総合的な学習」

2 研究の概要

見附市学校教育研究会総合学習部の研修会で講演をお願いし、地域の素材や人材を生かした単元づくりについて実践を通して教えていただく。教えていただいたことを自校の指導計画作成や単元計画づくりに生かしていく。

3 研究の実際

(1) 日時 平成28年10月6日(木)

(2) 講師 見附市立葛巻小学校 教頭 田邊 輝明 様

(3) 内容「実践に学ぶ・地域とつながる総合的な学習の時間」

長岡市立四郎丸小学校、魚沼市立堀之内小学校での実践例をもとに講話をしていただいた。



① 地域素材を生かした実践を進めるための単元づくり

地域素材を生かした単元づくりをするために、地域の情報をリーフレット、フリーペーパーなどさまざまな方法で集めることができる。また、今までの子どもたちの生活科・総合的な学習での学びの履歴を自校の「学習内容系列表」に照らし合わせながら単元づくりを行う。

また、繰り返し対象となるものとかかわる体験活動を大切にしている。リアルな体験、現実に出会わせる体験を特に大事にしている。その体験活動を通して、子どもたちの学びがより深いものとなるように自己の振り返りとともに、他者（保護者や地域の方々）からの評価を大切にしている。地域の方の話から子どもが自分と対象とのかかわりを見つめ直す新たな視点をもたせることもできた。しかし、体験したからといって、すぐに「気付いたこと」「発見したこと」を求めない。待つことで、思いがけない発見や展開ができる。

② 地域の人とつながるためのネットワークづくり

さまざまな人とかかわり経験することで、子どもは成長する。また、なかなか学校に足を踏み入れる機会がなかった人々も「先生」として、子どもとかかわる中で元気になれる。地域の人とつながることで、お互いにいい関係が生まれる。

そんな関係を作るために、学年便り、年度初めの懇談会などを利用して、学級経営案、年間カリキュラム表を保護者に示し、協力を依頼する。保護者が積極的に協力してくれたり、保護者の口コミで先生が見つかったりしたこともある。また、学年PTA行事の内容を総合的な学習の体験の場にして、親も子も同じ体験ができるようにした。また、活動後は学年便りに保護者や地域の方からの感想をもらう。それは、「学習モニター」という名称で学年初めに依頼しておく。そのいただいた感想が子どもたちへの励まし、賞賛となり、子どもたちの学びの自信になっていった。

また、年間活動計画を年度終わりに振り返り、見直しを行い、地域とのつながりを次年度に引き継ぐ。素材には旬がある。年度初めの計画を立てるときには、作物の育つ時期なども念頭に計画を立てる。

4 成果と課題

総合的な学習を通して、「自分の根っこになるもの」を子どもたちにもたせたいという田邊先生の実践は、大変ダイナミックで引き込まれた。その実践を支える、ネットワークづくり、計画づくりの緻密さや大切さを知ることができた。自校での実践や総合主任としての学校全体の年間活動計画づくりに生かしていきたいと考える。